

## 目崎氏をしのぶ

会長 小林 宏 治

本会名誉会員目崎憲司先生には、去る昭和44年12月15日逝去されました。ここに慎んで会員の皆様にご報告申し上げますとともに、目崎先生の霊に心から哀悼の意を表する次第であります。

目崎先生は、当OR学会の生みの親と申しても過言ではないお方でありまして、と申しますのは先生が大阪



大学経済学部主任教授をしておられた当時、先生のご努力で設立された経営科学協会というのが、その後の日本OR学会誕生の母体となったからであります。オペレーションズ・リサーチの如く、全く新しいテクノロジー分野について、学会を設立するということは、決して容易なことではない

のでありますが、これが極めて円滑に運び得たのは、その前身とも言うべき確かりした活動がすでに有ったからであります。同協会の機関誌として発行された「経営科学」が、そのまま現在の当会の機関誌として継承されている事実は、この間の事情を如実に物語っているのであります。

当会の今日の隆昌を見るにつけ、先生のご貢献に対し深く感謝申し上げます。

先生は、教育界にお入りになる以前は、永く住友本社において経理部門を担当され、住友グループの発展の基礎固めに貢献された方のお一人であります。このように企業経営についての永く、かつ深いご体験から、ORについても、常に経営との結付きに非常に関心を寄せられていました。わが国のOR活動の抬頭期に、「経営のためのオペレーションズ・リサーチ」というマクロスキーラの翻訳を手がけられたり、「経営科学」という呼び名をえらばれたりしたのも、その一端を示すものと思います。先生の遺著となった「近代経営学とマイクロ分析・企業の生成発達理論」も、先生の面目躍如たるものがあると感じます。ORの如き手法は、学問的研究と、企業等への実践的応用研究とが、車の両輪の如く並行して発達してこそ、その真価を発揮するものと考えられます。この点、先生のとられた明晰な指導理念には、私共の深く敬意を表する処であります。

また最近、コンピュータの異常な発達にも注目され、ORにおける正しいコンピュータ利用について熱意を燃しておられ、時には私など、コンピュータ企業にたづさわるものを叱咤激励されることもありました。しかし先生のお考えの根底には、常に人間性優先の思想が流れておられたと感じております。最近、世界的風潮として、テクノロジー・アセスメントとあって、科学技術の偏足的発達に対する総反省が行われつつありますが、ここにも先生のお考えの深さを伺うことができるのであります。

ここに、会員の皆様とともに、慎んで先生のご冥福をお祈りする次第であります。

## 故 目 崎 憲 司 教 授 略 歴

本 籍 広島県深安郡神辺町平野1の2の2  
 住 所 兵庫県西宮市南郷町10の14  
 出 生 明治26年2月4日

大正6年3月 東京帝国大学法学部政治学科卒業  
 6年5月 住友総本店別子鉱業所入社  
 昭和3年7月 住友別子鉱山株式会社庶務課長  
 6年2月 住友合資会社出向  
 7年2月 経済学博士（東京帝国大学）  
 12年1月 住友本社調査役  
 18年4月 企画院委員  
 20年12月 住友共同電力株式会社監査役  
 21年2月 日新（住友）化学工業株式会社監査役  
 23年11月 大阪大学教授  
 26年5月 大阪大学法経学部長  
 30年8月 大阪大学経済学部長  
 31年4月 下関商業短期大学長  
 32年2月 下関市立大学長  
 41年4月 追手門学院大学教授・経済学部長  
 41年4月 勲三等 瑞宝章  
 生産性関西地方本部副会長

### 本会関係履歴

昭和32年5月 入会，評議員副会長に推薦される  
 昭和33年4月 名誉会員に推薦される

昭和44年12月13日午後0時20分 逝 去